

せんぼ通信 No.1

ば・あ・や・の・う・け・う・り

「白い雨」

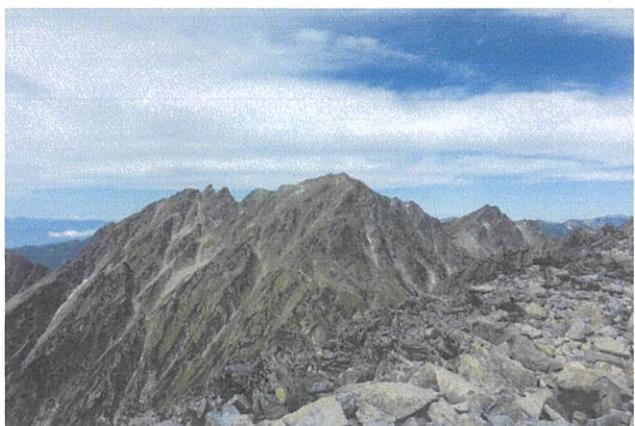
長野県は土石流の災害が多い所です。今年大きな被害があった村の人が「白い雨が降った」と言っていました。その村の古い石碑に「白い雨が降ると大蛇（土石流のこと）が走りぬける」と刻まれていたそうです。先人の教訓ですね。「白い雨」って・・・どんな雨・・・？そんなことが気になっていた7月31日午後、この栃山神に「白い雨」が降りました。雷鳴、突風とともに視界50m、白い膜が張られたように川向の山は見えなくなり、出るも入るもできないすごい勢い。一瞬自動ドアが反応し開き、店内は雨や木の葉でビショビショに。いつまで降るの？・・・雨量は？・・・山や川は大丈夫？・・・不気味さを感じながらもただ眺めていることしかできない怖さ。10分位で止んだのでホッとしましたが、「白い雨」の白さは滝の水の白さでした。

気象庁「高解像度降水ナウキャスト」で降水予想がわかるそうです。
あやしい雲がでてきたら調べてみるのもね。

御嶽山の噴火、厳しいですね。1週間前に息子が穂高へ登ってきたばかり。まさか・・とおもい、「山行っているの？」とメール。「友人の結婚式で静岡、それでなからああの辺のどこか登っていたかも」と。素人考で、地震より噴火の方が予知しやすいのかと、噴火などおもわず、吾妻、安達太良、好きで登っていました。あまいですね。自然災害のたびに感じること・・・人間とて「生身の地球」に仮住まいしているだけの存在かなあ・・と。

「自然酒の看板みたけど地酒ある？」と、ウキウキ感のおにいさまたちが来店。「柳橋歌舞伎をみてきた帰り」と。柳橋歌舞伎はまだみてないけれど、なんだかこちらまでうれしい感じ。栃木で歌舞伎をやっていて交流があること、鮭の頭と酒粕をつかった郷土料理が学校給食で一番人気があることなど、陽気におしゃべり。もちろん「田村」も買っていただきました。

「柳橋歌舞伎」のみなさんは学校ぐるみで練習をしたり、保存活動の努力をしているのはすごいですね。いつか、みにいきます。できれば練習もみてみたいですね。



穂高連峰

写真・大輔